



放送業界 / 報道記者

株式会社 毎日放送  
報道局ニュースセンター記者

**吉川元基**さん

京都府立南陽高等学校 出身  
2012年 政策創造学部 卒業



さまざまな生き方を送ってきた  
人たちとの出会いが  
私をジャーナリズムの世界へ導きました。

入社後2年、東京支社でのCMセールスの業務を経て、本年度7月に本社報道局へ転属となった吉川元基さんは、かねてから報道記者を目指していました。現在は遊軍として、事件や災害をはじめイベントまでジャンルに関係なく取材に走っています。時には政治的な問題やデリケートな問題にも直面しますが、真剣に取り組み、結果として取材先に喜んでもらえることが、やりがいになるそうです。

吉川さんが記者になりたいと思ったのは大学生のころ、関大近くのアパートでの暮らしが原点。6畳一間で、浴室、洗面、トイレなどは共同というそのアパートは家賃の安さもあり、幅広い年齢層の人たちが60人ほど共に生活していたとか。居住者に学生は少なく、貧困に苦しむ人や生活保護受給者など、さまざまな事情を持つ人々がたくましく生きている姿に、吉川さんは心を揺さぶられました。その経験は今、「大学時代に味わった世界観を1時間のドキュメンタリーとして制作したい」と思っています。貧困や、その中で生きる希望など、暗くなりがちなテーマを言葉や表情などを通して、人としての力強さに満ちた、どこかユーモアも感じられるものにしたい」という夢に進化しています。

「記者を目指す人には、新聞をできれば数紙、読んでほしい」と、物事を知り、情報を得ることの大切さをアドバイスしてくれる吉川さんのアンテナは、外出先でも、休日でも、どこかにテーマはないものと休むことなく、常に張り巡らされているのです。

ある1日の  
スケジュール

8:00 出社 昼のニュース取材  
11:00 原稿作成  
11:30 オンエア・チェック  
12:00 昼食・休憩  
12:30 夕方ニュースの取材  
17:00 原稿作成  
17:30 オンエア・チェック  
19:30 反省会  
20:00 退社



携帯電話、スマホ、筆記用具はもちろん、どこでも原稿を書けるようノートPCは必需品。取材先などと交換することが多い名刺は、普段は2つの名刺入れで使い分け。

※次号(3月号)は卒業記念特別号のため、次回の「働く関大人」は4月号での掲載となります。

Journalist